

宮古市 校務 DX 計画

本市では、文部科学省の GIGA スクール構想に基づき、令和 3 年度から市内の全小中学校において 1 人 1 台端末を活用している。また、デジタルドリルの整備やクラウドサービスの活用など、情報化が加速度的に進む Society5.0 時代において求められる力の育成と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向け、必要な環境を整備してきた。

教職員においても校務用端末やタブレット端末の整備により校務全般のデジタル化を推進している一方で、紙でのやり取りや従来型の業務が依然として多く行われており、今後さらなる業務の効率化と負担軽減を図る必要がある。

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言や、文部科学省が公開した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検結果等を踏まえ、次世代の校務 DX に向け以下の取り組みや検討を行う。

1. 教員と保護者間の連絡のデジタル化

チェックリストの自己点検結果において全国平均を大きく下回る結果となった「教員と保護者間の連絡のデジタル化」においては、クラウドツールを活用したお便りの配信や調査・アンケートは行われている一方、児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡機能の利用が進んでいない。教職員の負担軽減や保護者の利便性向上の観点から、学習 e ポータルサイトの欠席連絡機能と校務支援システムの健康観察機能の連携を見据え、学校における活用について検討する。

2. 統合型校務支援システムの導入

「岩手県クラウド版統合型校務支援システム」の運用を令和 8 年度から開始する。グループウェアについては、教育委員会⇄学校間、学校⇄学校間の連絡システムを整備済みであるが、全県統一システムの利活用により、教職員の異動にかかる負担軽減や、教職員間のコミュニケーションの迅速化・活発化が期待できる。また、名簿の登録にあたっては、就学児童の名簿情報をデータで学校に提供し、不必要な手入力作業の一掃を図る。

3. FAX・押印等の従来型業務の見直し及びペーパーレス化の推進

緊急時や FAX のほうが効率的となる場合を除き、原則廃止に向けた継続的な働きかけを行う。不必要な押印・署名についてもルールの見直しを図る。併せて、学校から各所への提出資料の電子化が可能なものを検討するとともに、会議資料等の共有化により、一層のペーパーレス化を推進する。

4. 教育情報セキュリティポリシーの策定

これまで市の情報セキュリティポリシーを準用しているが、クラウド活用を前提とした GIGA スクール構想に相応しいセキュリティレベルを確保し、データ活用や個別最適な学び等、新たな時代に相応しい教育 DX の基盤を構築するため、令和 7 年度内に教育情報セキュリティポリシーを策定する。